北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

学校造園の研究（第一報）：学校造園の重要性と問題点

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 重岡, 義雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00000977

学校造園の研究

第一報　学校造園の重要性と問題点

重　岡　義　雄

北海道学芸大学旭川分校農業研究室

Yoshio SHIGEOKA : A Study : How to set up the School Garden
Part 1. A Problem in the Importance of School Gardening

It has been frequently reported that the behaviors of present-day school children are very rough and even riotous. The school authorities should give more careful considerations to the situation without which it is feared more serious and sad accidents may occur in the future.

The major objective of the present study is how to give a more desirable environment to the children while at the school by setting up an appropriate school garden in order that the children may come to foster more tasteful and well-rounded

（1） 学校造園の重要性

学校は児童や生徒が昼間の大部分の時間を過すいわば「学校家庭」である．家庭が子供達にとつて魅力であることが必要であるように，学校もまた，魅力的でなければならない．

学校の建物だけが，よし，立派に出来ていても，建物周囲の環境が整備・美化されていなければ，子供達によい影響を与えない．

かつて，暴力学校として世間からさわがれた某中学校が，学校長の英断で環境を美化し，学校園経営による情操教育に力を注いだところ，校風が一変し，優良中学校として立ち直ることができた由である．

また，筆者が調べたところでは，函館市のK小学校で，乱暴で教師の手にもおえない子供達を指導するため，放課後，教師が生徒と共に草花栽培の仕事を続けたところ，生徒達の粗暴な行いがおさまつたという．

日高のA中学校で，校舎の周囲を整備して，そこに木を植えたり，花壇を作つて大いに力を注いだところ，校舎の窓際を紙くずでよごす生徒がなくなつたことや，これまで，ことに多かつた窓ガラス破損が，急激に減少したことなどがあげられている．学校でも，このような破壊行為については，手をやいていたのであるが，これが学校の環境美化によつて，このような効果があがるとは思いもかけないことであつた．

以上のような効果を全部環境美化のせいにするのは，少し独断過ぎるかもしれないが，校庭の環境美化が大きな原動力になつていることは疑をいれない．

学校造園の効果については，色々あげられているが，ここでは，主として情操教育の面から述べる．

情操は高尚な知識活動に伴つて起る複雑な感情の傾向であつて，その作用は永続的な傾向を持ち，その人の精神生活を方向づけるものである．例えば，美しいものに心を動かす美的情操，生きるものの尊い力（生命力）に心が触れ，おのずと敬虔な気持を抱くようになる宗教的情操，また，草花に水をやり草をとつて世話をしているうちに，次第に培われていく愛育の心，このような豊か愛情が子供達の心の中に自然に育つていくことを思うと，学校造園の役割の大きいのに，今更驚くばかりである．

現在の学校生活では，とかく児童や生徒たちの行動が粗暴になりがちであり，殺伐な気持を持ちやすく，反抗的になるもので，この粗暴さ殺伐さは，学校側に周到な教育的配慮がないと，いろいろな不祥事故の原因をつくる．このような中にあつて，よく整備されている学校造園は，つねに，どの子供達にも心の緊張をもみほぐし，うるおいのある気持と豊かな情操を抱かせる．

（2） 学校造園の問題点

学校造園が教育上重要不可欠であるにも拘らず，全道的全国的に見て低調であるのはなぜだろう．我国教育の貧困が，そこまで手がとどかないのであると，簡単に片付けてしまつてよい問題であろうか，人づくりの教育が，どこの国でも活溌に行われている際に，人間形成に重量な役割を果している学校造園のことが，なおざりにされているとしたら，由々しき事柄である．筆者はここに学校造園の不振の原因を説明したい．

筆者が，北海道の小学校・中学校96校について，これら学校造園の振わない原因について調べたものをみると別表１の通りである．

別表１　学校造園不振の原因となる要素

	①経費不足	②土地の条件が悪い	③人手不足	④知識・技術がない	⑤関心が薄い	⑥設備不足
学校数	47	42	32	24	13	11
比　率	48%	43%	33%	25%	13%	11%

（註）96校について調査（２つ以上の要素をもつ学校が多い）

①　経費不足　経費が足りないので，学校庭園経営がやつていけないというものが約50%，②土地の条件が悪い，学校敷地の土質が悪いので，学校造園がむずかしいもの43%，③　人手不足　学校造園の仕事に当る人が少いので，人手不足で庭の仕事がやりにくいもの33%，④　知識・技術がない．担当の先生が学校造園の知識・技術がないので困るとうつたえたもの25%，⑤　関心が薄い　学校長や其他の先生方が，学校園に関心が薄いので，仕事のやり甲斐がないというもの13%，⑥　設備不足　温床資材やその他の設備がないので，育苗がむずかしいというもの11%である．

学校によつては，不振の原因となる要素が一つだけでなく，二つ以上を持つている学校が多いので，以上のような数字が出たのである．

以上述べた問題点をもう少し突込んで述べよう．例えば，第一の経費の点であるが，これは大部分の学校がＰＴＡのような後援会から支給されていて，その額が不足勝ちである．即ち，学校造園に比較的関心の深い学校では，学校造園の経営費として，年額３万円かまたはそれ以上支出しているが，そうでない学校では，ひどい場合には，経営費の予算を組んでない所や，４～５千円の少額の金でお茶を濁している学校もある．経費不足では，庭園経営も成り立ち難く，結局は

放任してしまうようになるから，最少限２万円位の経費は是非必要である．

第二は学校造園を行う土地の問題であるが，土地が悪いと庭作りに苦労が多いことは当然であるが，実際問題として，学校敷地は地価などの関係でどうしても悪い土地に建てられる場合が多い．然し土地改良は当局者が，その熱意があれば，ある程度は解決できる問題で，研究すれば条件の悪い場所を活かす道も考え出される．

第三の人手不足の問題であるが，大抵の小学校・中学校の先生は，一週20数時間の授業時間の外に，色々な校務も分担しているので，その上に学校造園の仕事をするとなると，仲々大変な仕事になる．尤も学校長や先生方の理解があつて，側面的に援助の得られるところはよいが，そうでないところでは，余程意志の強い人でない限り，厭気がして放り出したくなる．この困難を打開する道は，学校造園経営の組織を確立，充実すると共に，他の先生方の認識を深くすることである．即ち，学校造園の仕事は，一部の先生の趣味や道楽でやつているのでないということを周知徹底せしめ，人手を多く要するようなときには，全部の先生が協力するような体制を作つて置くことが大切である．

第四は，学校庭園担当者が，その方面の知識や技術に欠けているので困るという問題であるが，このようになつた責任の大半はわれわれの学芸大学がおわねばならぬ．戦前の師範学校では，実業科は必修教科で，この中では，主に農業が課せられていて，学校造園の知識や技術は一応，ここで授られていた．然し大戦後の新教育制度では，わずかに職業科専攻の学生が履修する位で，その学生数も至つて少く，北海道学芸大学では，全学生数の５％位である．この問題の対策としては，教員養成大学の教育課程の根本を検討し，その不備を改善すると共に，泥縄式ではあるが，現職先生の長期の実技講習を行つて急場を切り抜けて行かねばならぬ．

第五の学校長や先生方の関心の薄いという問題であるが，この点は学校造園担当の先生の努力が足りなくて，そうである場合が多いから，その壁を破る位の熱意が必要である．教育につては人一倍熱心な先生方であるから，打てば必ずや響くにちがいない．

第六の設備の問題であるが，これも，設備がないからやらないと言つて，手をこまねいておればうまくないが，実行する熱意を示すと，おのずと解決されるものである．

以上学校造園の問題点について述べたつもりであるが，これらの解決については筆者も努力をつづける決心である．

（３） 美しい学校庭園の実例

美しい学校庭園のモデルとして，旭川市内の２つの小学校の例をここに紹介する．

(イ) 旭川市立東町小学校

この学校は写真でよくわかるように，よく整頓された中庭と，あか抜けしたデザインの花壇をもつた小学校で，旭川市の花園コンクールで，昭和三十五年，三十六年と二回連続首席一等に入賞した学校である．なお，昭和三十七年には大規模な観察園を作るなど，意欲的な前進をつづけている．

学校造園の活動は指導部のなかの美化係りの先生と，教科部の理科係の先生合計10人が，これに当つている．特に係のＴ先生は花壇つにいて優秀な技術の持主である．このような先生を中核として運営できるところに，この学校の強味がある．年間の学校庭園の経費は約３万円であるが，観察園新設のときは，特別経費として10数万円余が支給されている．また，花壇へ苗植するときのような，多人数の人手間を要するときには，先生方総出で仕事に当るなど仲々協力的であ

る．

(ロ)　旭川市立東五条小学校

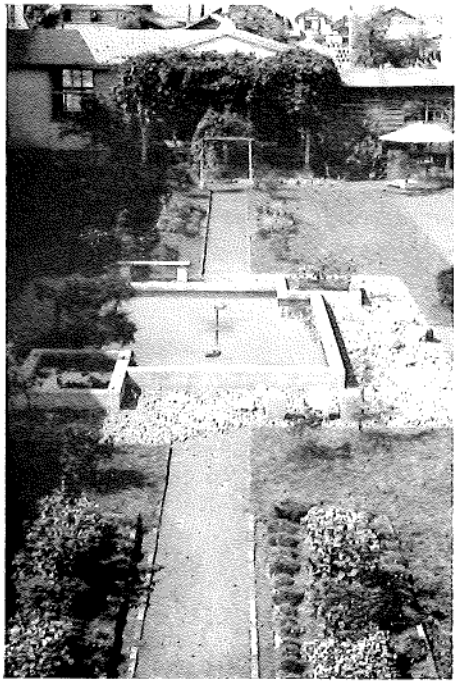
この学校庭園の基礎は前任者のA先生のエネルギッシユな活動におうところが多い．このあとをついだH先生も前任者にまさるとも劣らない熱心な先生である．このようによき後継者を得ることは，学校造園のようなじみな仕事の場合には特に必要である．

この学校でも，数年前までは，学校造園に関する先生方の関心は薄すかつたが，H先生を中心とした活動が効を奏して，中庭が次第に美化され，子供達が芝生のなかで楽しそうに遊んでいるのを見て，先生方の関心が急に高まり，その後先生方が非常に協力的になつた由である．年間の経費は約3万円位である．この学校は都市には珍らしくPTAの労力奉仕があるなど，校下の協力もまた活溌である．

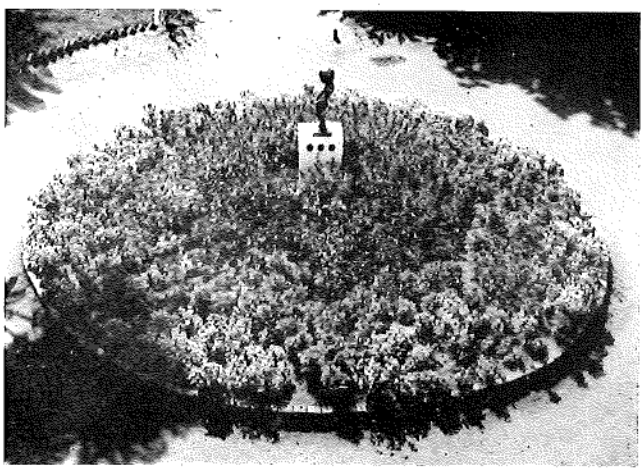
文　　献

重岡義雄：庭と花壇（学校篇）1954　北海道教育評論社
岩瀬倉二：愛知県下に於ける小学校の学校園の実態　1957　造園雑誌　Vol. 20 No. 4
重岡義雄：僻地の学校園　1957　北学大僻地教研教育研究紀要第8号
飯島　亮：学校園の整備　1960　日本庭園 No. 17
西田政善：学校園の改善に関する考察　1961　造園雑誌 Vol. 24 No. 3
重岡義雄：工場造園について　1962　日本庭園 No. 24

旭川市立東町小学校



中　　庭



後庭の花壇

旭川市立東五条小学校

中　　庭